

## 平成25年度事業報告書

平成25年度は、個人消費に持ち直しの兆しがみられ、日本経済全体としては景気回復の傾向が見られたとの報告もあります。また、子牛価格については、品薄感による影響もありましたが全国的に高い水準で推移し、枝肉相場も比較的堅調に推移しました。一方で、生産資材の高騰も同時に進行し、繁殖、肥育ともに厳しい経営環境が続いています。さらに、TPPは詳細が見えないまま交渉が進んでおり、先行きの不安感が高まる中、会員数や新規登録頭数が減少し、生産基盤の脆弱化が危惧されました。

このようななか、平成29年度に開催される第11回全国和牛能力共進会宮城大会の最終比較審査の会期および会場を決定しました。また、基本構想については全共プロジェクト会議等で検討を重ね、これらを踏まえて共進会の概要を作成し、開催テーマを「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」としました。和牛の生産効率を高め、生産頭数の維持拡大を図り、魅力ある和牛経営で繁殖基盤を安定させていくことを開催テーマに盛り込みました。

登録事業については、基本本原登録頭数は52,030頭（前年度対比94.1%）で、昨年度対比では幾分減少幅は緩和されましたが、依然として減少が続いています。高等登録頭数は1,155頭で、前年度対比88.7%と減少しました。一方で、子牛登記頭数は509,839頭と50万頭を超え、前年度対比104.5%と増加しましたが、平成26年4月からの消費税増税に伴う料金改定の影響もあると見られ、また、登録頭数の減少傾向が続いている中、次年度以降の子牛登記頭数の反動減には留意が必要です。なお、今年度からSNPsによる遺伝子型調査を開始しました。

育種改良事業については、DNAデータベースの充実に努め、SNPs情報を用いた和牛の育種改良への応用の検討を進めました。さらに、系統再構築を進めていく中で、系統から造成された種雄牛候補の現場後代検定結果が判明するものも出てきたところです。

一方で、会員数は57,199名で、後継者の不足や会員の高齢化も相俟って前年度対比93.8%と減少しました。そのような中で平成26年4月からの消費税増税に対応するため、大変心苦しいお願いとなりましたが、登記登録諸料金の改定を実施しました。また、多様化する会員への対応や組織運営上の問題点等に対処していくため、組織問題検討委員会を開催し、答申として一定の方向性を示すことができました。これらの内容を周知し、会員の皆さんにご理解とご協力をいただきながら健全な協会運営を進めていきます。今後一層、登録事業・育種事業を発展させ、生産基盤の安定と充実を目指し、国民に安定的に畜産物を供給していきます。

この他、以下に記述するとおり、会員はじめ各支部・支所並びに委託団体の協力により、諸事業を実施することができました。

## I. 事業の部

### 1. 登録・検定事業

#### 1) 登記・登録頭数

本年度の登録頭数は総計53,185頭（前年度比93.9%）、前年度実績比3,405頭の減少でした。

種 類	基本登録 (雄・雌含)	本原登録 (雄・雌含)	高等登録 (雄・雌含)	計 (前年度比)
黒毛和種	19,198	32,748	1,155	53,101 ( 93.9)
褐毛和種	61	16	0	77 (132.7)
無角和種	7	0	0	7 ( 70.0)
計 (前年度比)	19,266 ( 87.5)	32,764 ( 98.4)	1,155 ( 88.7)	53,185 ( 93.9)
前年度実績	22,003	33,285	1,302	56,590

子牛登記頭数は509,839頭（前年度比104.5%）で、前年度実績比21,880頭の増加でした。また、血統証明書発行件数は2,571件（前年度比106.5%）でした。

#### 2) 種雄牛の各種検定及び遺伝子型調査について

本年度実施された種雄牛の各種検定並びに遺伝子型調査は次のとおりでした。

なお、遺伝子型調査においては、本年度より、和牛DNAデータベースを活用したSNPs情報による遺伝子型調査を実施しました。

	今年度実績	前年度実績	前年度比
産子検定	0 件	0 件	( 0.0%)
産肉能力検定 直接法	89 件	87 件	( 102.2%)
〃 間接法	11 件	11 件	( 100.0%)
現場後代検定法	80 件	116 件	( 68.9%)
遺伝子型調査	40,958 件	37,956 件	( 107.9%)
〃 (再交付)	902 件	834 件	( 108.1%)
〃 (不良形質)	552 件	742 件	( 74.3%)

#### 3) 登録規程改正に係る検討

中央審査委員会において、現在の和牛の能力の現状等を確認し、全共の成果も踏まえ、登録規程改正にかかわる検討が行われました。

#### 4) 現場後代検定合同調査会の開催について

現場後代検定の普及・定着と若い種雄牛の発掘を目的に、平成26年2月13日から14日の間、兵庫県神戸市において現場後代検定合同調査会を開催しました。13道県から18頭の種雄牛の後代63頭（去勢40頭、雌23頭）が出品されました。また、シンポジウムは、「多様な評価指標の確立と普及を目指して」をテーマとして開催しま

した。なお、各県で開催された県内版現場後代検定枝肉調査会は研修会に準じた扱いで、助成並びに指導を行いました。

## 2. 育種改良事業

### 1) 集団育種事業の推進と現地調査及び指導・援助

育種組合の現地検討会及びミニ現地検討会を以下のとおり実施しました。遺伝的多様性の維持・拡大を狙いとした系統造成の考え方や、育種候補牛の選定、計画交配など、各育種組合の実情を踏まえて調査、指導を行いました。また、育種組合の実施する系統再構築を支援するための系統再構築事業については、平成22年度からの継続事業であり、育種推進委員会において進捗状況が報告されるとともに、今年度も引き続き事業が実施されました。なお、育種牛認定頭数は雄38頭、雌539頭（新規389頭、再認定150頭）となりました。

三戸(3/28)、いわて中央(7/26)、県南(7/25)、みどりの(12/11)、登米(12/9)、栗原(12/10)、飛騨地区(2/26)、淡路(8/20)、城崎(10/3)、美方郡(3/13)、鳥取(3/20)、広島(11/19)、北松(4/10、3/10)、五島(4/11)、壱岐市(1/15)、玖珠(3/17)、豊肥(3/18)、南那珂(2/27)、鹿児島中央(11/25)、始良(11/26)、薩摩(11/27)、肝属(12/5)、曾於(12/6)

### 2) 和牛改良組合の育成強化

新規認定並びに合併や地域拡大の申請のあった組合について、和牛改良組合強化委員会においてその内容を審議し、認定を行いました。認定和牛改良組合数は450組合となりました。また、和牛改良組合の規模も様々で、組合に対して求められる活動等も、時代とともに多様化してきている中で、当該組織（地域）に見合った組合活動のあり方を検討することが必要となっています。繁殖基盤の拡充のため、更なる改良組合の活動強化と組織の育成強化を図り、改良組合に関する行事を以下のとおり実施するとともに、産肉能力と種牛能力とのバランスのとれた改良手法について普及啓発を行いました。

#### (1) 和牛改良組合育成強化研修会の開催

本研修会は、講義や事例発表により、和牛改良の知識の取得と和牛改良組合の小集団活動のあり方や個々の農業経営強化に努めるとともに、改良組合間の交流を深めることを目的として開催し、改良組合が抱えている問題点の解決の一助となりました。また、研修会は次のとおりブロック別に開催しました。

地 区	会 場	期 日	参加者数
東 部 地 区	宮城県遠田郡・宮城郡	11/21～22	105名
中 部 地 区	石川県鳳珠郡	10/24～25	78名
中四国地区	京都府京丹後市	10/21～22	65名
九 州 地 区	大分県竹田市	12/16～17	72名

(2) 和牛改良組合女性部研修会 3/5 (66名)

和牛改良組合の女性部を対象に、和牛改良の知識習得を図り、和牛生産を支える女性の交流を深めることを目的に開催しました。

(3) 支部主催和牛振興研修会への協力

本会支部主催の和牛振興研修会の開催に対し、合計22回の開催助成と講師の派遣を行いました。

(4) 認定和牛改良組合の表彰

「認定和牛改良組合および育種組合表彰規程」に基づき、改良組合活動に優れ、顕著な功績があったと認められる組合に対し、表彰を行いました。今年度は、改良組合として繁殖成績優秀な組合を対象とし、分娩間隔実績値の部15組合、子牛生産指数・飼養管理技術の部5組合が表彰されました。

3) 各種遺伝情報の解析とその有効利用について

本年度も各種遺伝情報の解析とその利用システムの普及に努めました。また、産肉情報については支部独自の情報収集と併せて、国の行う産肉情報収集にかかわる事業についても取り組みました。牛肉の美味しさに関する調査については、「多様な牛肉生産体制確立支援調査研究事業」等を利用して、随時サンプリングを実施しました。また、SNPs情報を用いた遺伝的多様性の検討や経済形質にかかわる育種・改良方法の検討を行うために和牛DNAデータベースの構築に努めました。

なお、本年度は産肉情報入力 0件（本会入力のみ、その他収集枝肉情報136,007件）、情報解析（年間）17件、情報解析（1回）34件でした。

4) 優良和牛遺伝子の保留強化

優良和牛遺伝子保留中央協議会と連携して育種価に基づく高能力牛の保留を強化するとともに、生産者・関係者が一丸となって和牛遺伝子（DNA）の保護・管理を行える体制づくりに努め、和牛遺伝資源国内活用協議会の活動に協力し、和牛の遺伝資源としての重要性について啓発・普及活動に取り組みました。

5) 各種委員会について

中央審査委員会	平成25年5月9日、平成25年10月28日
育種推進委員会	平成25年6月25日
産肉能力検定委員会	平成26年1月29日
産肉能力検定小委員会	平成25年5月10日、平成25年9月4日
和牛改良組合強化委員会	平成26年1月28日
遺伝的疾患等検討委員会	平成26年2月19日

### 3. 技術者等養成研修事業

#### 1) 審査標準等討議研究会の開催について

10月27日宮崎県小林市において種牛審査標準による討議研究会を開催しました。

#### 2) 地方審査委員認定講習会の開催について

各ブロック内の支部の協力により下記のとおり3会場で開催し、審査委員の養成と登録業務の円滑化に努めました。

回次	期間	会場	受講者数
第190回	8/26～ 8/28	宮城県遠田郡 全農みやぎ総合家畜市場	20名
第191回	10/8～ 10/10	島根県出雲市 島根県畜産技術センター	26名
第192回	11/13～11/15	長崎県壱岐市 壱岐家畜市場	28名

#### 3) 登記検査委員認定講習会の開催について

本部主催の登記検査委員認定講習会について下記のとおり実施しました。

回次	期間	会場	受講者数
第9回	4/23～ 4/24	兵庫県加西市 神戸大学大学院農学研究科 附属食資源教育研究センター	21名

#### 4) 和牛入門ゼミナールの開催について

和牛登録業務の初心者、新任者を対象に、審査・登録実務研修と改良に関する講習会に分けて開催し、登録業務・審査の周知と和牛改良の基礎知識の修得など若手技術者の養成に努めました。

##### 審査・登録実務研修

実習の部	期間	会場	受講者数
東日本	9/18～ 9/20	福島県耶麻郡 磐梯高原リゾートインぼなり " 福島県農業総合センター 畜産研究所沼尻分場	30名
西日本	9/ 9～ 9/11	島根県大田市 近畿中国四国農業研究センター 大田研究拠点	40名

##### 改良の基礎研修

講義の部	期間	会場	受講者数
全体	6/19～ 6/20	京都府京都市 全国和牛登録協会2階ホール	58名

#### 5) 支部・支所職員事務研修会の開催について 7/18-19 (42名)

登録支部・支所・委託団体の登録担当者を対象者として、登録事務を正確並びにならびに円滑に遂行するため、研修を行いました。

#### 6) 第21回和牛育種・改良問題セミナーの開催について 1/9 (50名)

育種改良にかかわる支部・支所・委託団体関係者を対象として、繁殖性にかかわる遺伝的能力評価やSNPs情報を活用した系統分類に関する調査報告を行いました。

## 7) 全国支部長会、地方ブロック会議の開催について

### (1) 全国支部長会並びに登録協議会の開催

全国支部長会並びに登録支部主任者会議 平成25年12月13日 (第67回)  
登録協議会 平成26年 1月28日 (第67回)

### (2) 地方ブロック会議の開催について

以下の4ブロックで開催し、種牛審査標準の周知徹底と審査眼の統一を図ることを目的として審査研修を行いました。また、平成25年度事業の実施計画等について説明しました。

ブロック	期 日	会 場	参加者数
東部地区	5/23～5/24	栃木県那須塩原市・矢板市	106名
中部地区	5/30～5/31	静岡県富士市・富士宮市	49名
中四国地区	5/21～5/22	京都府宮津市・京丹後市	91名
九州地区	6/ 3～6/ 4	宮崎県都城市	193名

## 4. 普及啓発事業

### 1) 第11回全国和牛能力共進会について

第11回全共に向けてプロジェクト会議(4/19、7/19、12/12)を開催し、基本構想や開催テーマ、出品条件の詳細などの検討を行いました。また、第11回全共第1回全国連絡協議会(1/28)を開催し、全共の概要について説明を行いました。なお、開催テーマと開催期間は、下記のとおりです。

開催テーマ：「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」  
最終比較審査

会 期：平成29年 9月 7日 (木) ～ 平成29年 9月11日 (月)

会 場：種牛の部 宮城県仙台市 夢メッセみやぎ  
肉牛の部 宮城県仙台市 仙台市中央卸売市場食肉市場

### 2) 各道府県共進会について

各道府県で開催される共進会に対して、派遣申請に応じて審査委員の派遣を行いました。

### 3) 日本学校農業クラブ全国大会における家畜審査競技会への支援

### 4) 各種刊行物

(1) 登録簿 6巻 (基本2巻、本原4巻)

(2) 和牛誌 4冊 (64巻1号～4号)

(3) 和牛だより 2回 (第42号、第43号)

(4) 和牛産肉能力検定報告書

(平成24年度直接法、平成24年度承認分現場後代検定法)

## 5. その他

国の施策に基づく、多様な畜産・酪農推進事業のうち家畜改良対策推進、多様な牛肉生産体制確立支援調査研究事業等、肉用牛の生産性関連形質評価精度向上事業、和牛の登録事業と改良に資する事業を受託し、実施しました。

## II. 運営管理の部

### 1. 会員および賛助会員について

会員数は57,199名（前年度比93.8%）、前年度実績比3,752名減少しました。賛助会員については、中央団体11団体、地方団体52団体、個人17名でした。

### 2. 会議等の開催について

1) 第67回通常総会	平成25年 6 月 26 日
2) 理事会	第168回 平成25年 6 月 7 日
	第169回 平成25年 6 月 26 日
	第170回 平成25年11月29日
	第171回 平成26年 1 月 22 日
	第172回 平成26年 3 月 24 日

3) 監事会 1 回（6 月 26 日）

4) 監査会 2 回（6 月 6 日、11月28日）

5) 公認会計士による会計指導 5 回

（6 月 11 日、10 月 7 日、12 月 6 日、1 月 15 日、2 月 21 日）

6) 支部評議会、支部調査会、支所評議会、支所調査会等開催

### 3. 組織強化並びに財源確保について

和牛の経営形態が変化し、協会会員の考え方も多様になってきている現状において、登録事業や育種改良事業を円滑に進めていくため、登録組織ならびに育種改良組織のより一層の安定が重要となっています。これらの課題に対処するため、組織問題検討委員会を8月30日、11月18日、2月14日の3回開催し、答申をまとめ、一定の方向性を示すことができました。

また、平成26年4月からの消費税率引き上げに伴う登録諸料金の改定については、第67回通常総会並びに第170回理事会での決議に基づき、農林水産省へ登録諸料金改正の申請を行い、認可されました。

### 4. 社員選挙準備について

第170回理事会(11/29)において選挙管理委員6名を任命し、選挙管理委員会を1月27日開催しました。

### Ⅲ. 収益事業の部

登録会館の賃貸業として収益事業を実施しています。賃貸契約については、1階入居者と新たに契約を行いました。また、2階については、随時会議室として貸し出しを行いました。



## 平成25年度事業報告の附属明細書

平成25年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。